

データ管理の簡便性に高い評価 最近では化粧品メーカーの導入も増加

大塚製薬は、化粧品メーカー向けに「MDS-Cosme」というデータ管理システムを開発し、最近では化粧品メーカーの導入も増加している。MDS-Cosmeは、化粧品メーカーの生産現場で発生する膨大なデータを一元管理し、設計・開発・生産の連携を促進する。従来の紙ベースのデータ管理から、クラウドベースのデジタル管理へと移行し、業務効率向上が図れる。また、データの可視化により、品質管理や在庫管理も容易になる。化粧品メーカーは、消費者のニーズに迅速に対応するため、データ駆動型の経営戦略を推進している。MDS-Cosmeは、そのための重要なツールとして期待されている。

日本システム開発 研究開発データを資産化する 業界特化型ソフトを開発・発売

独立系のソフトウェア開発会社である日本システム開発は、大手電機メーカーからの受託開発を事業の柱としながら、開発から販売、保守まで一貫して行うことを強みに、独自のパッケージソフト開発に注力している。



今年7月には、研究開発データベースソフト「配合設計システムMDS-S」から、化粧品・医薬部外品の研究開発に特化した「MDS-Cosme」(写真)の販売を開始した。研究開発データの共有・有効活用による作業効率向上が図れるほか、資産として技術継承につながる。研究開発レベルの底上げも期待できる。

を開發。既に4社が導入し活用しているという。基礎となるマスター機能には、原料・成分一覧はもとより、表示名称やトレーサビリティ情報、処方とそのプロセス、評価試験結果などの登録が可能で、輸出先の国の法律・規制などの設定もできる。登録データは様々な条件指定で即時検索できるため、有効成分はもとより、防腐剤などのキヤリーオーバー成分のチェックにも有効だ。

MDSは、もともとゴム製品の研究開発における課題解決を目的に、処方設計データの一元管理と検索ができるソフトとして展開した。既存システムから移行しやすい設計に加え、従来から使用する帳票フォーマットやアウトプット用データなどを踏襲したいという要望にも対応する「ユーザーの自由度が高い」機能が好評を得て、既に様々な業界で導入事例を生み出してきた。その流れを受け、化粧品の研究開発に特化したソフト「MDS-Cosme」を開発した。

また、オプション機能として、製品化されたデータの管理や、プロジェクトなどの進捗管理を行う「工程管理」も用意しており、ユーザーのニーズ特性に合わせてカスタマイズすることもできる。

特集

生産性向上支援